

## ソフトウェアと文書の自由を推進するための LibreOffice への移行

LibreOffice は自由ソフトウェアである優れた個人向け生産性スイートで、MS Windows、MacOS X、GNU/Linux 向けに提供されており、あらゆる文書作成およびデータ処理の必要性をみたす六つの豊富な機能のアプリケーションを提供しています。文書作成用の Writer、表計算ソフトの Calc、プレゼンテーションソフト Impress、描画ソフト Draw、データベースソフト Base、そして数式入力用の Math です。

LibreOffice は、ユーザーが個人であっても、組織であったとしてもあらゆる種類の個人的文書作業のニーズをみたすようにデザインされています。このソフトウェアは数百万の PC にすでにインストールされており、中にはフランス政府、ヨーロッパ中のいくつかの地域、郡または市 - 例えばドイツのミュンヘン市など - またその他多数の団体、例えばデンマーク、コペンハーゲンの病院システムなどで利用されています。

LibreOffice は ISO 標準であり、世界中の政府や団体 - NATO など - で公式に認められている Open Document Format (ODF) に準拠しています。この真のオープンスタンダードに則り、すべてのオフィスドキュメントのデフォルトのフォーマットとして採用しています。ODF ファイルはファイル名の拡張子から .odt は文書 (text)、.ods は表計算 (spreadsheet)、.odp はプレゼンソフト (presentation)、.odb はデータベース (database)、.odf は数式 (formula) と簡単に識別できます。

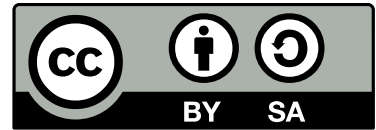
LibreOffice はファイルを「ハイブリッド PDF」と呼ばれる形式で保存できます。この形式は標準の PDF ファイルで、ODF 文書が完全な形で埋め込まれているものです。このような文書は LibreOffice のユーザーにとっては通常の ODF ファイルとして開けますし、そうでないユーザーはただの PDF ファイルとして開くことができます(受け取り手は PDF として読み取り専用で開くときは完全にフォーマットされた形で開けますが、必要であれば LibreOffice で編集することもできます)。この形式は文書の相互運用性を高め、独占的なソリューションからの置き換えができない場合に効果を発揮するでしょう。

LibreOffice は文書を電子メールに添付して送るショートカットがあります。サポートされているフォーマットすべてが送信可能です: ODF、PDF (ハイブリッドも含む)、MS Office フォーマット(旧形式も含む)など。

LibreOffice は自由なフォントだけをインストールします。すべてのオペレーティングシステムで利用することができ、これにより作り手と読み手が異なるオペレーティングシステムを利用している場合でも同じレイアウトを保つことができるため、相互運用性が向上します<sup>1</sup>。

---

<sup>1</sup> 日本語フォントについては残念ながら同梱されていません。IPA フォントなど、すべてのプラットフォームで利用可能なフォントを用いることを推奨します。



## LibreOffice への移行

---

オフィススイートは個人の利用でも組織内の利用でもさまざまな業務フローの中に組み込まれていますし、そのためほとんどのパーソナルコンピュータのユーザーが日々の業務を行う上で欠かせないものとなっています。個人のレベルで LibreOffice に移行するのはとても簡単なことですが、組織での移行は大変な努力を必要とすることになるでしょう。というのは組織力学でいうところの抵抗勢力が変更を阻止すべく潜在的な問題があらわにしますし、オフィススイートが IT インフラの中に、サードパーティ製の独占的なソフトウェアや、文書テンプレート、そしてマクロといった形で網の目のように入り込んでいるからです。

言い換えれば、LibreOffice への移行は組織のプロセスを再考するとても素晴らしい機会なのです。例えば、すでに存在する Visual Basic のマクロを移行する前に、それが本当に継続して必要なのか、それとも、すでに使い勝手が悪くなっていて、新しく書きなおしたほうがよいものなのかどうか決めることができるからです。同じようなことは文書テンプレートにも言えますし、独占的なプラグインにも言えます。

LibreOffice 4.0 は、MS SharePoint、IBM FileNet、Alfresco、Nuxeo などのコンテンツ管理システムで管理されている文書にアクセスし、読み込み、編集することを可能とするオープンスタンダード、CMIS (Content Management Interoperability Services) を直接実装したことにより、こういったプラグインの必要性を大きく低減しました。

## 移行プロセスの開始

---

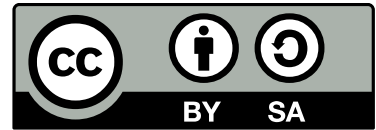
移行の対象となるサードパーティのアプリケーション、テンプレート、マクロの分析が完了したなら、パイロットプロジェクトの実施から移行をスタートさせることができます。パイロットプロジェクトは移行に影響しうるすべての問題を発見したり、想定される文書の処理フローや相互運用の作業を明確にするのに役立ちます。LibreOffice は、多大な努力の末 MS Office と高い互換性を持っているにもかかわらず、それぞれの強みと弱みをもった異なるアプリケーションであり、特別な処理フローと相互運用性の問題を引き起こすこともあるでしょう。

パイロットプロジェクトの参加者は組織の処理フロー全体を代表するグループでなければならず、LibreOffice に十分慣れているか、慣れている人にすぐに連絡が取れるようになっていなければなりません。

The Document Foundation は LibreOffice への移行に成功した経験のある独立事業者を紹介する用意があります<sup>2</sup>。彼らはプロジェクト管理、開発、トレーニング、サポートなどの分野で専門的なサービスを提供しています。専門家のサービスを受けることは、組織内での大規模な LibreOffice の移行を成功させるための

---

2 残念ながらこのサービスは欧米に限られているものと思われます。



鍵となるファクターです。加えて、ソフトウェアを将来追加で開発する際に機密と経済的な資源を守ることもつながります。

パイロットプロジェクトはいくつかの鍵となる目的があります：

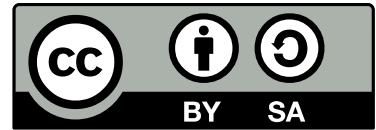
- 致命的な文書、テンプレート、マクロを見つけ出すこと：すでに存在する文書やテンプレート、マクロなどの多くは実は使われていなかったりするでしょうし、**LibreOffice** に移行したあとでも生き長らえるものもあるでしょう。使用しつづけることになるドキュメントとテンプレートは標準の **ODF** フォーマットに変換すべきですし、マクロについては適切な技術で作りなおすべきでしょう。
- 文書（一つの場合も複数の場合もあります）が回覧される、第三者が介入する業務フローの一覧を作成すること。組織内部の業務プロセスに直接の影響をあたえるものです。新たな業務フロー – 可能なら、新しいよりよい標準ドキュメントフォーマットを含んだもの – は、第三者と共にチェックされ、また関わるすべてのユーザーに説明されるべきです。
- ツールと **MS Office** に依存したアプリケーションの一覧を作成すること。特に **CRM** や **ERP** の環境では重要です。こういったアプリケーションはきちんと認識され、**LibreOffice** との互換性をチェックされる必要があります。**LibreOffice** の新機能が代替のソリューションとなることもあります（例えば **CMIS** 接続性のように）。チームリーダーやグループマネージャーへのアンケートは、彼らのビジネスソリューションが **MS Office** とどのように関係しているかのよりよい洞察として使えることでしょう。

当初からサポートへの呼び出しを最小にし生産性を最大にするために、「導入」パッケージをユーザー向けに用意しておくことを強く推奨します。**LibreOffice** に対する追加の情報や、基本機能のハイライト、また **MS Office** との機能の違いなどを盛りこむと良いです。

まずすべての文書を標準である **ODF** フォーマットとし、古い、あるいは今使っている **MS Office** の文書フォーマットはプロプライエタリなオフィススイートとデータ交換をする手段としてのみ残すようにすることはとても重要です。ファイル共有はとても重要な問題です。デスクトップ自体と、交換される情報の両方に意味を持たせる基礎となるものだからです。**ODF** をデフォルトの文書フォーマットにすることは、組織に対し、その膨大な情報資産を、陳腐化とベンダーロックインから防ぐことを保証することになります。

すべてのユーザーに **LibreOffice** をインストールし、**MS Office** でしか満たせない特別な要求を持っているユーザーだけに限り **MS Office** をインストールすることを強く推奨します。

特に表計算においていくつか重要な不具合を持ってはいたものの、**MS Office** はバージョン 2007 から **ODF** の読み込み・書き出しをサポートしており、2013 では **ODF 1.2** のリファレンス実装をサポートしました。また、もし **LibreOffice** を持っていない他組織に文書を渡す必要があったとしても、彼らが文書を閲覧したり印刷したりしたいだけならば、**PDF** フォーマットをファイル交換に利用できます。最終版であれば読み込み専用の



PDF でよいですし、ハイブリッド PDF であれば LibreOffice で編集もでき情報の劣化もありません。

それぞれのドキュメントについて相互運用のためのフォーマットを何にするかを定めることは、一般的なユーザーにとって不必要で余計なことに見えますが、これはプロプライエタリなフォーマットの制約のロックインとから開放されるため、ユーザー自身および組織にとって鍵となる要素なのです。ユーザーも組織も、非公開な文書フォーマットは自由を制限するだけでなく、情報資産の所有権をも制限していることを認識すべきです。

## 組織内の「技術的リーダー」を特定する

---

パイロットプロジェクトが完了し ODF への移行が落ち着いたら、組織内の「技術的リーダー」を特定すべきときです。それぞれの部門において、技術に明るいと思われる人々です。つまり、最新のスマートフォンや PC を買い、最新のアプリケーションを使ったりするような人々です。

「技術的リーダー」は移行プロセスにおいて重要な役割を果たします。LibreOffice のエバンジェリストとなり、ユーザーが何かサポートしてほしいときに最初に接触する人々になるのです。「技術的リーダー」のこれらの役割と努力に対し、組織の管理層は認識し、援助し、適切な報酬によって報いるべきです。

「技術的リーダー」を少人数で行われる LibreOffice の説明会に招待しましょう。これらは上級および中間の管理職、IT サポートチームも参加するものです。この説明会は LibreOffice に対する要求を集め、決定権を持つメンバーおよびオピニオンリーダーに移行プロセスのやる気を与えるものです。

中心となるステークホルダーが納得したならば、それぞれのスタッフに対して移行プロセスについて伝え、適切なトレーニングと導入が終わり次第、すぐに LibreOffice を採用するよう働きかけることができるでしょう。

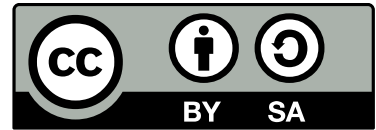
上級および中級の管理者と「技術的リーダー」が一体になることで、組織の違う階層に入り込むことが容易になります。このグループは移行プロセスのすべての段階において頻りに顔を合わせ、それぞれの経験や、共通する課題をそれぞれどう解決したかを共有することになります。

## トレーニングとサポートの提供

---

LibreOffice についての上級トレーニング – その性質、アドバンテージ、機能、癖、MS Office との主な違いなどを含む – はどのような移行プロジェクトにおいても基礎となるステップです。IT 担当者、トレーナー、「技術的リーダー」、中間層あるいはその上の管理職、そしてすべてのユーザーに対して、さまざまなレベルのトレーニングが提供される必要があるでしょう。

トレーニングプロセスにおける別の目的は、移行プロジェクトの理由と目的をユーザーに理解してもらうことで、ただの予算削減のための解決策ではないということを知ってもらうことです。LibreOffice への移行はオープンな標準フォーマットを選ぶということであり、各メンバーの創作物の自由を守り、ベンダーロックインを排除することなのです。



中間あるいは上級管理職を含むユーザーは、技術的なスキル、トレーニングの必要性、組織単位によって分けられるでしょう。これらのグループはマイグレーションの実施フェーズを計画する上で基本となりますので、一つの移行段階が実施される際にグループはひとまとめになるようにしなければなりません。

The Document Foundation は現在トレーニングのリファレンスプログラムと、認定トレーナーのリストを用意するため作業中です<sup>3</sup>。認定トレーナーが存在することは、あらゆる組織に LibreOffice を提供する、あるいは MS Office から LibreOffice に移行することを成功させるために必要な付加価値サービスを提供することができる、LibreOffice のエコシステムを成長させる上でもう一つ重要な段階です。

ユーザーを手助けするため、サポートチーム全体は「よくある質問とその答え (Frequently Asked Questions (FAQ))」のリストの作成も並行して行うことになるでしょう。あとで必要になったときに容易に参照できるようにです。閲覧や改定を容易にするため、これら FAQ は、移行プロセス上で必要となるあらゆる文書 - 特にプレゼンやマニュアル - と一緒に、組織のウェブサイトにオンラインで公開されるべきです。

トレーニングはサポートチーム構築のためにとっても重要です。「技術的リーダー」 - 多くの場合、同僚たちに対して最初にサポートを提供するのは彼らになるでしょう - は、自分の部署で起こったわけではない問題の解決策は提供できないでしょうから、そういった問題は常にレベル 1 サポート<sup>4</sup>に上げられ、必要に応じてレベル 2 サポートに上げられます。

レベル 1 サポートチームとレベル 2 サポートチームは組織内部にいることもありますし、外部に存在することも、また両者が混在していることもあります。LibreOffice への移行のステージによって異なるでしょう。

## Level 3 サポート

---

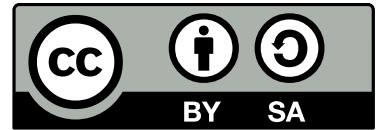
何か問題が起きて、レベル 1 サポートもレベル 2 サポートもこれはユーザーサイドの問題ではないという結論を出したときは、レベル 3 サポートに連絡すべきです。彼らは LibreOffice 自体の挙動を治すことができます。LibreOffice のエコシステムにはレベル 3 の認定サポートがいます。実装が欠けていたり部分的だったりする機能や、バグやリグレッションなど、技術的な問題を特定でき解決できると認定された開発者です<sup>5</sup>。認定開発者は、彼らが修正したコードを LibreOffice のすべてのユーザーのためにコントリビュートしなければならず、これはエコシステム全体に正の影響を与えるということを理解することは重要です。

---

<sup>3</sup> 残念ながらこれも現在は日本での提供は予定されていません。

<sup>4</sup> レベル 1、レベル 2、レベル 3 サポート - 各サポートベンダーが提供できるサポートレベルのことです。日本ではあまり使われていないようですが海外のドキュメントではよく出てきます。L1~L3 と称されることもあります。大雑把に言えば L1: 窓口レベル。L2: 簡単なバグ修正やパッチと当て込み、リパッケージなど可能。L3: コアのコードにコミットできるレベル。といった感じのようです。

<sup>5</sup> 現在のところ訳者の知る限り日本にはレベル 3 サポート事業者は存在していません。



レベル 3 サポートなしで大規模な組織に LibreOffice を展開するのは非常にリスクであり、プロジェクト全体の失敗につながる恐れがあります。レベル 3 サポートの助けがあれば、組織はどのような不具合に直面してもすぐに解決することができるという安心を得ることができます - これはコミュニティ・フォーラムやメーリングリスト、バグトラッキングシステムでは必ずしも可能ではありません。

## LibreOffice をすべてのパーソナルコンピューターに導入する

---

特別な技術的な理由で MS Office を使い続けると決まっているユーザーのものも含め、すべてのパーソナルコンピューターに LibreOffice を導入することは、高度に計画される必要があります、トレーニングスケジュールと合わせて計画されなければなりません。最初のトレーニングセッションが終わったらすぐに LibreOffice を使えることを確実に保証する必要があるからです。

導入方法は IT インフラの構造の性格によってそれぞれ違うでしょうし、適切なものが選択されます。LibreOffice はすべての一般的なプラットフォームで動作する適切なシステム管理ソフトウェアを使った、大きな組織内での大量導入も可能ですし、あるいは (Windows に限りませんが) InstEd や Orca といった MSI エディターを使って MSI パッケージをちよつといじって、グループポリシーオブジェクト (GPO) を作ってソフトウェア・パッケージを配布することもできます。

MS Office を LibreOffice と併用することを許されたユーザーは特別な相互運用性の要件 (C\* フォント<sup>6</sup> を使わない、など) に従わなければなりません。

## 過去の成功した LibreOffice 移行事例から学べること

---

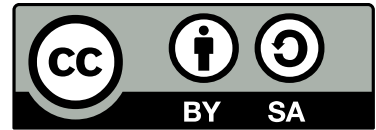
LibreOffice は、どのような大きさの組織内のユーザーのほとんどにとって日々のニーズに十分な機能群を提供しています。一般的には、数少なく残った障害は MS Office のマクロ関係の進んだ機能を利用した表計算ソフトに関するもので、これはしばしば様々な理由で移行を難しくしています。

ユーザーはトレーニングを経れば LibreOffice によって文書を作り出すことができるようになるでしょう。したがって、トレーニングが始まる前にワークステーションのセットアップを完了しておき、テストを済ませておくことが大切です。どんなインストールの遅れもトレーニングの効果を減らしてしまうからです。また、移行に関連したどんな問題についても、「技術的リーダー」から訓練を受けたサポート人員まで辿ることができる参照ポイントを提供することは極めて重要です。

最初のいくつかの文書の作成というものは、ユーザーに対して LibreOffice の品質について長く印象を与えるものです。スムーズなプロセスは移行を継続してみよう、さらに高度な機能に挑戦してみようというモチベー

---

<sup>6</sup> 訳注: 実は C\* フォントとはなんだか訳者は把握していません。多分 MS Office についてくるフォント (日本で言えば HG 書体のような) だと思われます。



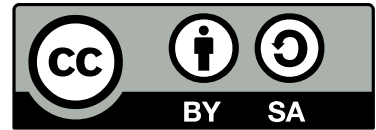
ションとなります。一方、問題の陥穽に落ち込んだら – それがつまらない問題だったとしても – やる気は削がれ、悪い印象が残るでしょう。

そして、最大の問題は、変更に対する抵抗勢力です。どのような大組織でも、新しい技術を導入しようとしたときの副作用として現れます (LibreOffice に限った話というわけではありません)。しばしば重荷と感じられますし、付け加えれば日々の業務で付き合いねばならず、注意深く作られたコミュニケーション戦略によって立ち向かわなければなりません。ユーザーは、いくつかのトレーニングを経た後、よりよく、苦勞に見合ったユーザーエクスペリエンスを提供する新たなツールの利用を説得されなければならないのです。

抵抗勢力を生み出す典型的な理由は次のとおりです：

- 何かわからないものへの恐れ。新しい技術によってもたらされる良い点は引き起こされた恐怖を上回るには不十分な場合。
- この変更が上位の管理層からの押し付けであるという印象。同じ階層の中間管理層と従業員が同じツールを使っていないときに起こる。
- 貧弱なコミュニケーション戦略。管理プロセスを変更した際に十分なコミュニケーションのような手段が取られなかった
- 業務ルーチンの変更が、ユーザーが安楽な領域の変更 – あるいは自分の意志でない縮小 – と読み替えて捉えられている
- 組織の管理体制、あるいは個人が変更を管理する能力に対する不審感
- 変更に対する必要性の誤解。特に今のやり方が非常にうまくいっている……そして 20 年はこのやり方でやってきたんだ!と信じている場合
- 現状維持からの変更は、プロセスの終了においては誰かの状況がそれ以前より悪くなる(変更によって他のグループ、例えば古参の従業員については、若い連中の立場がよくなるなど)だろうという印象を与える

もちろん、「力任せ」法 – 警告なしに LibreOffice をインストールし、MS Office を追放する – はすべての中で最低の選択です。反発しか生み出さず、いかなる成功の望みをも断つ行為です。



## 集中的コミュニケーション戦略

---

MS Office から LibreOffice への移行に伴う組織へのインパクトを減らすため、すべてのステークホルダー – まず第一に、すべてのオフィススイートのユーザー – に対して、このような大規模な組織的な変更を行うかコミュニケーションを取ることは大変に重要です。実際のところ、二つのオフィススイートが機能一つ一つを比べてもほとんど同じだったとしても、ユーザーは何年も作業に使って手に馴染んだ道具を変えなければならないのか理解できないのです。たとえそれが全自動に変わるのだとしても。

推奨されるアプローチとしては以下のようなメッセージが入るべきでしょう：

- 移行のプロセスとその根拠の概要。
- LibreOffice とフリーソフトウェアについての基本的なコンセプトの短い紹介。
- 移行プロジェクトのスケジュール。直接関わるユーザーに対しては異なる段階のまとめも。
- それぞれのユーザーの生産性に関わる文書/アプリケーション/ワークフローについての情報を提供してくれるように、協力の依頼
- トレーニングのスケジュールの概要、および追加のトレーニングの機会について。
- トレーニング後に用意され移行プロセスが完了されるまで利用できる新しいサポートインフラについての概要
- プロセス全体におけるフィードバックの依頼、およびフィードバックをどのように管理するか仕組みの概要

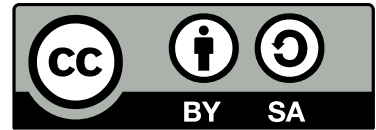
注意深く作られた管理コミュニケーション計画は、異なる層がそれぞれメッセージを受け取れるように目標を定められるべきです。異なる層というのは組織機能図の機能単位ごとというだけではなく、それぞれの機能単位の異なる種類の人々についてということです。

「異なる種類の人々」というのは変化にどう対応するかで分類されるもので、モダンなマーケティング計画に登場するものです：イノベーター(革新的採用者)、アーリーアダプター(初期採用者)、アーリーマジョリティ(初期多数採用者)、レイトマジョリティ(後期多数採用者)、ラガード(採用遅滞者;あるいは保守的伝統主義者)。

イノベーターは常に新しいものを試したくて仕方がなく、新しい、あるいは今までと違う技術への移行プロセスの常に先頭に断つタイプの人たちです。全体の 2.5% ほどしかいないにも関わらず、彼らはたくさんの、いつもうまくはいかないけれども、何か新しいものに飛びついているのです。ときには管理層が決定する前に移行を望むタイプでもあります。

アーリーアダプターは典型的なオピニオンリーダーで、ある変化を行う価値があるかどうかを皆に注視されているようなタイプです。彼らはイノベーターほど冒険的ではありませんが、典型的には新しいものは何か、どれ





が有用でありうるかを追いかけていると見なされており、彼らは変化を肯定的な明かりと捉えています。

アーリーアダプターはあらゆるところにいます。職務や職責によりません。どんなたぐいの移行コミュニケーション計画は彼らを対象にすべきです。なぜなら彼らの発信力は不可欠であり、もし彼らが反対したならばどのような変化の努力も無に帰すからです。アーリーアダプターは人口の約 **13.5%** いるとされています。

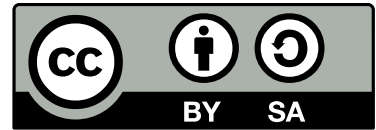
アーリーマジョリティはアーリーアダプターよりもやや保守的で、アダプターたちの新しいアイデアはこのグループの平均的なメンバーよりもやや先を行っていますが、何か新しい面白いものに向かっているということについては同じです。彼らは変化が本当に良いものかを信じるのにもう少し時間がかかりますし、「熟慮した意欲」のあとに変更に追随しますが、それを牽引したりはしません。人口の **34%** 程度とされています。

アーリーマジョリティはアーリーアダプターの激励とリーダーシップなしには許可があったとしても変化を望みません。彼らは時間をかけて考え、他のグループと比べての勝ち負けに気を払います。ここが変化キャンペーンにおけるコミュニケーションの成否を分ける唯一のポイントです。彼らが勝者ならば、それで終わりです。

レイトマジョリティは変化の効果も信じていませんが必要性も感じず、あるいは変化は不可避だと見て撮れば、ただそれに従います。彼らもまた人口の **34%**ほどであり、また古いやり方の一番良い部分を保全しようということに最も気を払う人たちです。アーリーアダプターとアーリーマジョリティがこちら側に来なければ、彼らがこちらにつくことはありません。

ラガード、あるいは保守的伝統主義者は常に古いやり方のほうがよいと考えています。残り **16%**を占め、他のメンバーが変化を受け入れたときには決まり事に従ったふりをしますが、依然こそこそと、隠れたやり方で変化に抵抗します。

変化管理コミュニケーション計画の作成にこれらの戦略を利用すると、この仕事は大変簡単になり、より効果的になります。変化管理プロジェクトが多すぎると失敗します。管理がその焦点を失い、自然と仲間が増える勢いが作られる前に、不信と批評が蔓延するからです。



## LibreOffice を入手する

---

LibreOffice 4.0 は <http://ja.libreoffice.org/download/> から入手できます。

機能拡張は <http://extensions.libreoffice.org/extension-center> から入手出来ます。

LibreOffice は The Document Foundation によって開発された、非営利で独立したフリーソフトウェアプロジェクトで、2010 年 9 月の終わりに立ち上げられ、10 年の歴史を持つ OpenOffice.org を元としています。より詳しい説明は Website にて: <http://www.documentfoundation.org>.

LibreOffice ユーザー、フリーソフトウェアの援護者、コミュニティメンバーは The Document Foundation に寄付することによってその活動をサポートできます: <http://donate.libreoffice.org>. 集まった寄付は我々のインフラストラクチャの増強や、本プロジェクトをより知ってもらうためのマーケティング活動に用いられます。

## 本文書の日本語訳について

---

本移行ガイドは [TDF 公式ブログの 2013.3.27 日付けの記事](#)において公開された PDF ドキュメント「[Migrating to LibreOffice to promote Software and Document Freedom](#)」を、LibreOffice 日本語チームのメンバーである小笠原徳彦 ([naruoga@gmail.com](mailto:naruoga@gmail.com)) が翻訳し、日本語の文書として読みやすいと思われる形に整形したものです。本文書の翻訳品質について TDF および LibreOffice 日本語チームは一切関与しません(もちろん、個人的にはそれなりの品質になるよう努力はしたつもりです)。

本ホワイトペーパーの翻訳についてご意見がある場合は、小笠原にメールを投稿していただいても構いませんが、日本コミュニティの議論の場であるメーリングリスト [discuss@ja.libreoffice.org](mailto:discuss@ja.libreoffice.org) にてご意見をお寄せいただくほうがより有意義な議論ができると思います。参加方法は <http://ja.libreoffice.org> の「ヘルプ」→「[メーリングリスト](#)」をご覧ください。

ぜひ皆さまの知見を集めて本文書をブラッシュアップしていきましょう!

なお本文書は PDF と LibreOffice のハイブリッドドキュメントです。PDF でダウンロードして LibreOffice で開けば編集可能です。ご活用ください。

本文書は [クリエイティブコモンズライセンス 表示 - 継承 3.0 非移植](#) で提供されています(オリジナルのライセンスを継承しています)。このような有益な文書を自由なライセンスで配布してくれた TDF に感謝します。